

テーマ

脂質検査

監修

帝京大学医学部 内科学 教授 木下 誠 先生

Q7



採血時、食事の血清脂質への影響はどの程度ありますか？

A7



血清脂質検査は原則として早朝空腹時に採血を行います。一般的に、摂食によりトリグリセライド (TG) 値は増加しますが、総コレステロール (TC) 値やHDLコレステロール (HDL-C) 値はほとんど変動しません。これは食事の影響は主としてカイロミクロンやVLDLといったTGに富むリポ蛋白に強く出現するためです。図1に高脂肪食を摂取した後の血清脂質値の経時的変動を示します。このようにコレステロール値は食事による影響が少ないことが分かります。外来患者を対象に行った我々の検討でも、食後のTG値は食前に比較して平均値で19.2%有意に増加していたのに対して、TCは-1.5%、HDL-Cは-1.2% (平均値) とわずかではありますが、むしろ有意な低下を示しました。

従ってコレステロール値のみを知りたい場合には必ずしも空腹時採血にこだわる必要はありません。しかし、LDLコレステロール (LDL-C) を Friedewald の式 ($TC - HDL-C - TG/5$) で計算する場合には空腹時採血であることが必要です。空腹時採血が不可能な場合には、コレステロールの評価をLDL-CではなくnonHDLコレステロール ($TC - HDL-C$) で行うのが望ましいとされています。

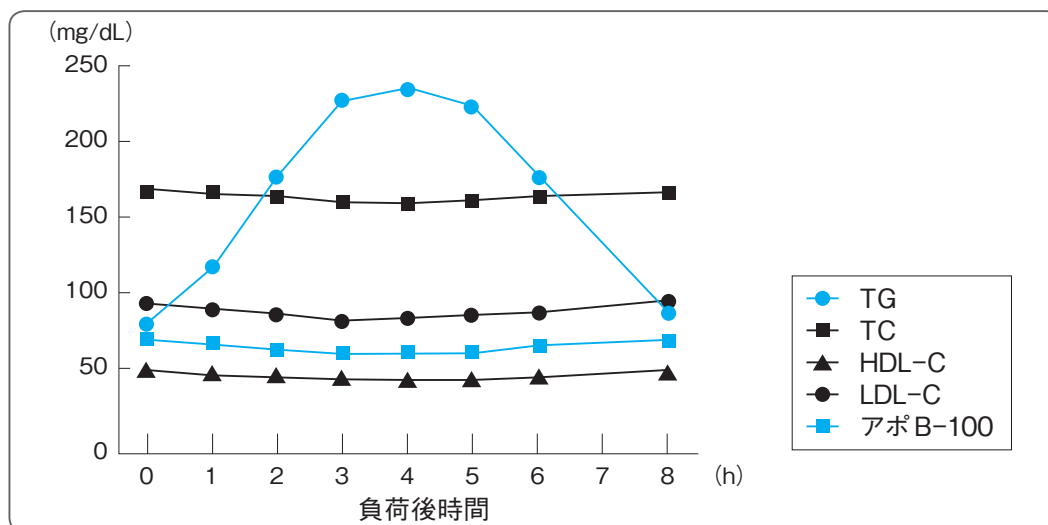


図1. 健康成人10名に脂質負荷 (1,045kcal 脂質63gr) を行ったときの血清脂質の経時的変化 (酒井ほか Mebio24:69-75, 2007より)